

有馬 純寿 ARIMA Sumihisa

1965 年生まれ。エレクトロニクスやコンピュータを用いた音響表現を中心に、ジャンルを横断する活動を展開。ソリストや室内アンサンブルのメンバーとして「サントリーホールサマーフェスティバル」「コンポージウム」などの現代音楽祭をはじめ数多くの演奏会で電子音響の演奏や音響技術を手がけ高い評価を得ている。第 63 回芸術選奨文部科学大臣新人賞芸術振興部門を受賞。2012 年より国内外の現代音楽シーンで活躍する演奏家たちと現代音楽アンサンブル「東京現音計画」をスタート、その第 1 回公演が第 13 回佐治敬三賞を受賞した。東京シンフォニエッタメンバー。

現代音楽作品の電子音響の演奏以外では、一柳慧、湯浅譲二、杉山洋一をはじめとする作曲家との共同作業や、スガダイロー、石若駿などジャズミュージシャンや、国内外の実験的音楽家とのセッションも積極的に行っている。また、会田誠、小沢剛らとの「昭和 40 年会」をはじめ美術家とのコラボレーションも多く、最近では「瀬戸内国際芸術祭 2013、2016」に参加し、香川県男木島にてインスタレーションの展示やワークショップなどを行ったほか、昨年 10 月にはソウルにて韓国の同世代の美術家たちとのプロジェクト「50|50」を行った。

現在、帝塚山学院大学リベラルアーツ学科准教授、東京音楽大学大学院特任教授、京都市立芸術大学非常勤講師。